

いのちの水をひく

用水路を掘る

ああ、おれのおっぴい祖父（じい）ちゃん、仕事したの、うんとお。昔の人だから、稼（かしえ）いだんだねえ。今の二人前は稼（かしえ）いだんだね。朝の四時んなつころ起きてねえ、夜の九時か十時ころまで、まず十二時間は稼（かしえ）いだんだね。昔はほんとに稼 [かしえ] ぐばりなんだ。

あいっだもん、おら方（ほ）田んぼ、一反歩掘ったって、なに、うんと作悪（わり）かったのね。そのために、山仕事おやったのね。木い伐ったり、木流したり、全部、あゆの。だから、おら家（い）の祖父（じ）っちゃま、もと営林署の代理しだったから。あの山の監視ね。いっさい、世話（しえわ）しだんだね。五十年近くやってたね。ああ、営林署の電話あったよ。こうゆ、カタンってなってる、四角の、うん、手で廻すのね。

あれだっちゃわあ、（むかし稲は）吉田の方でうんど育（おが）っててもね、（升沢では）小（ちゃ）っこいからはやあ。田植えだってやあ、遅れたからはや。で遅れでもね、戦後になって、丈（たけ）しないけっどもじゃあ、米っこ獲れたの。んでも、下 [しも] の方で十俵獲れっときねえ、おら方（ほ）では五俵も獲れねえの、一反歩から。だけっども、やっぱ、食（か）あねえでいらんねえからじゃあ、作（つぐ）ったの。

（用水路も）おら家（い）のおっぴい祖父（じん）つあん、引いたんだからじゃあ。ちょうどおれ、七つ、八つの時だから。おれ覚えあんだ。じんつあまあ、負ぶって連（ちえ）てかれて。なんだっけ、一月以上かかってんだから、掘り方じゃあ、少しばりでねかったね。それでねえ、ほの水使って、上から水落どして、あすぐに発電所こしやえたんだよ。自家発電。下原あたり、全部電気やってじゃあ、明るくして。（昭和）二十七、八年なんだっけ。

（『升沢にくらす』 p.266）

みんなで水力発電

ほら、電燈（でんき）点がんねえからね、升沢さ。あの、おら家（い）の後（うっしょ）さ、堀っこの水で、発電機、（電気）起（おご）して。全部で八軒すか、全部引っ張ったんでねえのかや。あれ、だって、ほんなに点けらんねえんだおん、ほのタービン小せえぐて。一軒一燈、あとラジオね、10 ワットだから。（今では）暗い。でも、電気だからね、なんでも出来（で）んだっちゃ。

そして、今っころ、木の葉落ちっとねえ、そごさ、葉っぱ、今うっんど流れてくっから。（木の葉で水流が弱まって）暗くなんのしゃ。おら家（い）さ何人か来でて、葉っぱ取っさ行ぐんだっちゃ。そうすとまた灯がパーッと、明るくなんの。たーいへんなの、寒（さみ）いから。うん、毎晩交代、今日はどこそこって、二人ずつね。何時までって、決まってて…八時、九時かや。十時まで点けてたんでねえ。

ほんで、ラジオ買ったんだおん、ほれ。うん、楽しみだったねえ、（ラジオ）聞ぐのね。あのアンザイアイコさん、唄歌ってっ時だから。毎朝ラジオさ出んだよお、あの唄、むかしの唄だから、小学校唱歌つつの、よく歌ったったの、朝。「アンザイアイコさん歌っでるから、かけろはあ」って、（ラジオ）かけんだった。（『升沢にくらす』 p.221）